

令和8年産

# 小麦技術情報No. 3

令和8年2月13日  
巻農業普及指導センター

## ～越冬後の管理ポイント～

- 播種時期の遅れから越冬前の茎数が不足しているほ場が見られます。湿害対策の徹底に向け、**融雪水は早期に排水**しましょう。
- 越冬後追肥は、小麦の生育量に合わせて、適期に実施しましょう。**茎数の少ないほ場は、消雪後追肥を施用**しましょう。
- 雑草の種類と生育状況を確認し、必要に応じて生育期処理用除草剤を遅れずに散布しましょう。

## 1 消雪後の排水対策

融雪水の停滞は、土壌の酸欠状態を招き、根腐れや枯死といった障害の発生につながります。

(1) ほ場内停滞水がある場合は、小溝を周囲明きよにつなげ排水を促す。排水溝暗きよ栓の開放を確認するとともに、周囲明きよや排水溝、排水口、排水路の点検・補修を行い、排水を促進し、停滞水を迅速に排除しましょう。

(2) 降雨後のほ場内の地表水が、排水路まで確実に流れるよう、定期的に明渠や排水口を点検整備し、湿害の防止に努めましょう。

土塊が詰まって排水機能に支障がでないよう、点検・補修を行いましょう。



## 2 雑草防除

越冬後に雑草の生育が旺盛になると、小麦と養分を競合し、小麦の穂数や1穂粒数、千粒重を低下させ、減収の原因となります。また、病害の発生要因にもなるので、雑草の発生が多い場合は早めに防除を徹底しましょう。

薬剤名	適用雑草	使用量	散布液量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	備考
アクチノールB乳剤	一年生広葉雑草	100～200 mL/10a	70～100 L/10a	雑草茎葉散布 又は全面散布	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	大麦も同じ使用方法が可能
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	100～200 mL/10a	70～100 L/10a	雑草茎葉散布 又は全面散布	生育期(但し収穫 45日前まで)	1回	大麦は収穫90日前まで
ハーモニーDF (必要に応じ展着剤を 加用)	スズメノテッポウ 一年生広葉雑草	5～10 g/10a	50～100 L/10a	雑草茎葉散布 又は全面散布	播種後～節間伸長前	1回	大麦も同じ使用方法が可能
	一年生広葉雑草	3～10 g/10a	50～100 L/10a	雑草茎葉散布 又は全面散布	節間伸長開始期～ 穂ばらみ期(但し収穫 45日前まで)		大麦は使用不可

(農薬最新登録日：2026年2月4日)

農薬を使用する際は農薬使用基準に基づき、使用者責任を理解して使用してください。  
散布にあたっては周辺ほ場に飛散しないように風向き等に細心の注意を払ってください。

### 3 越冬後追肥

越冬後追肥は、穂数や1穂粒数を確保するとともに、千粒重の増大に効果がありますが、過剰施肥を行うと倒伏の助長や、白色未熟粒の発生が多くなり、加工適性の低下につながります。生育量に合わせて適期に追肥しましょう。

追肥時期 ※( )内は管内のめやす時期で年次間差に注意	効果	10aあたり 追肥成分量	備考													
消雪直後(3月上中旬) 	○越冬による 消耗の回復  ○穂数の増加  卷の平年値は 4℃以上→3/5頃 5℃以上→3/14頃	窒素 右表参照  カリ 2~3kg	○消雪直後の茎数を確認し、追肥量を調節する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>消雪後茎数</th> <th>10aあたり窒素成分量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>700本/㎡未満</td> <td>4~5kg</td> </tr> <tr> <td>700~1,000本/㎡</td> <td>3kg</td> </tr> <tr> <td>1,000本/㎡以上</td> <td>実施しない</td> </tr> </tbody> </table> ○融雪水が流出し、作業が可能になってから行う。 ○日平均気温が4~5℃以上にならないと肥効が現れない。	消雪後茎数	10aあたり窒素成分量	700本/㎡未満	4~5kg	700~1,000本/㎡	3kg	1,000本/㎡以上	実施しない					
消雪後茎数	10aあたり窒素成分量															
700本/㎡未満	4~5kg															
700~1,000本/㎡	3kg															
1,000本/㎡以上	実施しない															
茎立期(3月下~4月上旬) 	○穂数の増加  主茎の稈長が2cm になった時期	窒素 右表参照	○茎立期の茎数と葉色を確認し、追肥量を調節する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>茎立期茎数</th> <th>葉色 (SPAD)</th> <th>10aあたり追肥量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">600本/㎡未満</td> <td>42未満</td> <td>2kg</td> </tr> <tr> <td>42以上</td> <td>1~2kg</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">600本/㎡以上</td> <td>42未満</td> <td>1~2kg</td> </tr> <tr> <td>42以上</td> <td>実施しない</td> </tr> </tbody> </table>	茎立期茎数	葉色 (SPAD)	10aあたり追肥量	600本/㎡未満	42未満	2kg	42以上	1~2kg	600本/㎡以上	42未満	1~2kg	42以上	実施しない
茎立期茎数	葉色 (SPAD)	10aあたり追肥量														
600本/㎡未満	42未満	2kg														
	42以上	1~2kg														
600本/㎡以上	42未満	1~2kg														
	42以上	実施しない														
止葉抽出期(4月上旬~中旬) 	○1穂粒数、 千粒重の増加	窒素 右表参照	○茎数が多い場合や葉色が濃い場合は減肥する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>止葉抽出期 茎数</th> <th>葉色 (SPAD)</th> <th>10aあたり追肥量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">500本/㎡未満</td> <td>45未満</td> <td>2kg</td> </tr> <tr> <td>45以上</td> <td>1~2kg</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">500本/㎡以上</td> <td>45未満</td> <td>1~2kg</td> </tr> <tr> <td>45以上</td> <td>1kg未満</td> </tr> </tbody> </table>	止葉抽出期 茎数	葉色 (SPAD)	10aあたり追肥量	500本/㎡未満	45未満	2kg	45以上	1~2kg	500本/㎡以上	45未満	1~2kg	45以上	1kg未満
止葉抽出期 茎数	葉色 (SPAD)	10aあたり追肥量														
500本/㎡未満	45未満	2kg														
	45以上	1~2kg														
500本/㎡以上	45未満	1~2kg														
	45以上	1kg未満														
穂揃期(5月上~中旬) 	<b>【注意】パン用小麦のみ</b>  ○タンパク質 含有率の向上	窒素 4~6kg	○タンパク含有率が高め、製パン適性を向上させるために必ず施用する。  ○尿素溶液を赤かび病防除薬剤の混合液による散布を行う場合は、2回に分けて肥料焼けを回避する。													

「穂揃期」画像：日本海側砂丘地・気候における砂丘畑地パン用小麦の栽培技術マニュアルより